
僕のブチ猫

sakurannbo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のブチ猫

【Nコード】

N3399B

【作者名】

sakuranbo

【あらすじ】

僕の飼い猫の短い命をつづったもの。読んでください。

(前書き)

ノンフィクションです。

いなくなった事に初めて気が付いたのは今日の朝だったかな。
でも、いなくなってもあまり心配しなかった。

なぜかって？

昨日の夜までは、腹をパンパンにさせて、眠ってたから。

でも、一応全部さがしてみたんだよ。

車の下も、屋根の上も、大好きだったお気に入りの箱も。ほかにも
ぜーんぶ。

でも、どこにもいなかったんだ。

オスだから、出て行っただんじゃないかとおもってた。

でも、それから二時間くらいたったかな。
猫が見つかったって。
急いでかけつけたよ。

そしたら、車のところに倒れてたんだ。それも血まみれで。

びっくりしたよ。驚いた。

おなかにえんぴつくらいのちいさな穴があいていてね、足も折れてたんだ。

痛かっただろうな。

どうやら、野犬におそわれたみたい。

動けない状態なのに、自分で這ってきたっぽいから、なきそうになった。

急いで、応急手当をしたよ。

でも、間に合わなかった。

すごくよわってたよ。

呼吸するのさえもくるしそうで。見てられなかった。

それでも、必死にこっちに向かってくるんだ。

こんなに弱ってるんだったら、探しても、返事ができるはずないよね。

なんでこんなことになったんだろうね。

この猫、ばあちゃんが死んだ次の日に、うちに来たんだ。

ばあちゃんの生まれ変わりかもしれないっておもってた。

でも、性格がぜんぜん違ったよ。

おもしろいくらい。

ねている間、じつと顔をみつめてきて、なにか言いたげだった。

なんて言おうとしたのかな。

もしかして、「ありがとう」かな？

いやいや、「バカヤロー」だったりして。

なーんてね。

猫が喋ったら、いいのに。

そうすれば、何かしてあげられる事があったかもしれないのに。
無理にきまつてるのに、そんなことを思った。

この猫は、一番好きだった。
人懐っこくて、いつでもごろごろしてて。
一緒にいると、とても心が安らいだ。

でも、そんなことを思っても、もう無理だね。

もう、あの毛を触ることは出来なくなっちゃったね。

あの声を聞くこともダメ。

あまり、思い出さないようにしよう。

どんなに思い出しても、悔やんでも、戻ってはこない。

もう、この世にはいないのだから・・・。

（後書き）

お読みいただき、ありがとうございました。

出来れば感想を送ってください。
お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3399b/>

僕のブチ猫

2010年12月29日22時53分発行